町長に新春インタビュー

横越町長　浅見良一

十一世紀に向けて、町民のみなさんと町づくりにさわやかな汗を流したいと思っています。

新年の抱負と今後の町づくりについてお聞きします

新年あけましておめでとうございます。みなさんのご多幸とご繁栄をお祈り申し上げます。

さて、昨年は内外ともに多事多難の年でありました。特に国内では、かつて経験したことのない金融機関の経営破綻などで証券、銀行界の倒産が相次ぎ、少なからずも私どもの生活に影響を与えました。

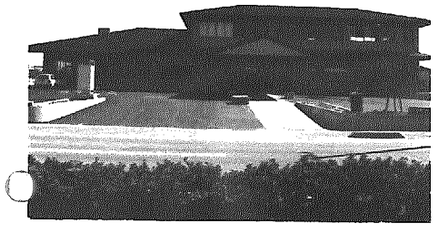
年も改まり、今年は寅年であります。「虎は千里往って、千里還る」という言葉にあやかって、果敢決断、困難に耐え、進取の気性を発揮し、この難局を乗り越えたいと思っております。

これからの町づくりでは、豊かな自然と恵まれた環境を守り、温かい人情、心を大切にする町を目指します。そして広い視野と確かな見通しを心掛け、広域化、情報化に生きる知恵と能力を互いに培い、目前に迫った二十一世紀に向けて、町民のみなさんと町づくりにさわやかな汗を流したいと思っています。

福祉政策についてお聞きします

少子化、高齢化時代の到来により、高齢福祉対策が最重要課題となっております。寝たきり、痴呆症の方々の要介護施設はもとより、すべての人々が住み慣れた地域において健康で安心して老後を送ることのできる町を目指します。

子どもから高齢者まで、障害者も健常者も、すべての住民の健康づくりのために、町の保健福祉計画を着実に推進し、また、少子化の中で安心して産み育てられる社会環境づくりも大切な施策であろうと思っております。



保健センター及び在宅介護支援センター

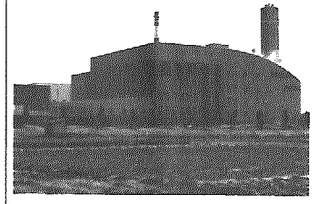
生活環境整備についてお聞きします

快適でうるおいのある町づくりのために、下水道、ごみ処理は重要な都市整備の条件であります。

公共下水道の整備は、焼山・十二前地区を除く全町域を対象として進めており、既に町内の普及率は83%に達し、県内町村で一位の普及となっております。焼山、十二前地区は合併処理浄化槽の設置を進めていきます。

一方、ごみ処理対策でありますが、現在、可燃ごみ・粗大ごみは新潟地区広域清掃事務組合の亀田焼却場で処理を行っております。焼却には最新の技術を駆使し、ダイオキシン等の有害ガスの発生除去対策については万全を期しております。また、駒込地区には不燃ごみの最終処分場も立派に完成し、安全に稼働しております。

人口の増加、生活様式の変化に伴い、ごみの排出量は年々増加し、ごみの減量化、再資源化への取り組みが急務となっております。みなさまの一層のご協力をお願いいたします。



亀田焼却場

広域行政の推進についてお聞きします

広域行政の推進は可能な限り進めるべきだと思います。

国も地方も厳しい財政状況の下、ますます増大する行政需要や住民の日常生活、経済活動の一層の広域化が進む中で的確に対応するためには、今まで以上に積極的に広域行政の推進に取り組む必要があります。

例えば、近隣市町村において会館・センター等の類似施設の乱立を避け、近隣市町村と協力し、施設を利用し合い、効率的かつ的確な施設整備や住民へのサービス提供が行われるよう、広域的な視点から考える時代に入ったと思っております。

今後の土地利用計画についてお聞きします

道路整備の進展に伴いまして、地域が大きく変わって参ります。横雲バイパス、大阿賀橋の開通、県道新潟港横越線の四車線化、新潟大外環状線の整備促進等により、都市的土地利用の需要が一段と増大いたしております。

今後は、さらに都市的土地利用の需要に応えるために、適正かつ先見性をもって対応し、町土全域の有効利用を積極的に図り、町の健全な発展を期して参りたいと思っています。

横越町と豊栄市を結ぶ大阿賀橋

町の財政見通しについてお聞きします

国家財政、地方財政ともに厳しい財政環境におかれております。私は常に「最少の経費で最大の効果を生み出さなければならない」と申し上げておりますが、総合体育館の建設をはじめ、避けて通れない高齢者福祉対策の一環である福祉ゾーンの整備など、幾多の公共施設整備による町債発行額も増加しております。今後は町債縮減のため計画的繰上償還に努めなければなりません。

しかしながら、年々増加する住民の行政需要に応えるため、財源確保はもとより、引き続き行財政改革を推進し、財政構造の健全化を図るため最大の努力をいたす所存であります。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

今年は寅年

今年は寅年。虎は干支の三番目、肉食目ネコ科の動物です。ライオンが「アフリカの百獣の王」なら、虎は「アジアの百獣の王」です。ウスリー（ロシアと中国の国境地帯）、中国大陸、朝鮮半島、東南アジアなどに広く生息していますが、日本列島には野性の虎はいません。

日本の文献に初めて虎が登場したのは『日本書紀』で、欽明天皇の六年（五四五年）に、百済で虎退治をして、その皮を日本に持ち帰った人がいるということが記されています。生きた虎が日本に来たのは寛平二年（八九〇年）といわれ、その後、江戸時代には、虎は見せ物として江戸・大坂（大阪）などを回っていたようです。

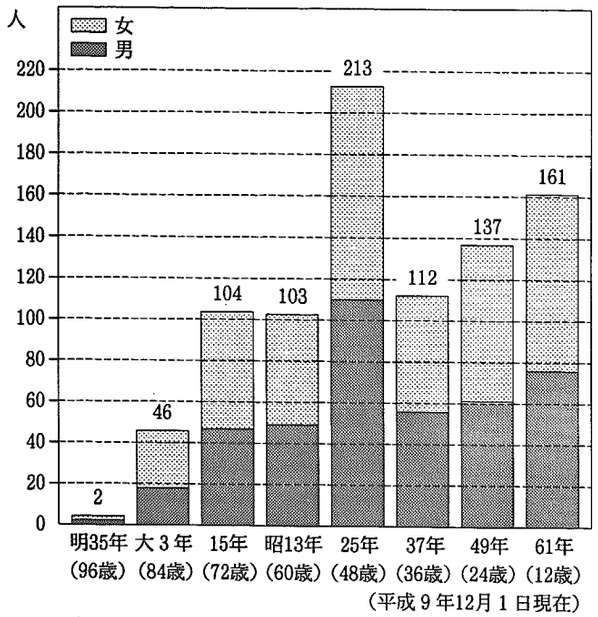
多くの人が虎を見られるようになったのは、動物園が普及するようになってからです。しかし、虎はことわざなどによく登場し、昔から親しまれています。

だれでも知っている「虎の子」は、大切なもの、秘蔵のものということ。「虎穴に入らずんば虎児を得ず」も、虎の子が貴重なものという意味から、危険を冒さなければ（虎の住んでいる穴に入らなければ）成功は得られないということです。「虎の巻」は、もともとは兵法の秘伝を記した書物のこと。以前は、学生さんなどが参考書などをこう呼んだものです。

また、虎は強いもの、恐ろしいもののたとえにもよく使われます。「虎視眈々」「虎の威を借る狐」「虎の尾を踏む」「虎は千里往って千里還る」「虎は飢えても死肉を食わず」「虎は死して皮を残す」など、枚挙にいとまがありません。ただし、酔っ払いの大トラはいただけません。

いずれにしても、昨年は明るい話題の少ない年でした。今年は虎のように、威勢よく頑張りたいものですね。

町の寅年生まれの人口



（平成9年12月1日現在）

町議会12月定例会

平成八年度一般会計・特別会計決算認定

平成八年度一般会計決算などを審議する横越町議会十二月定例会が、十一日から十九日までの九日間の会期で開催されました。

初日には、一般質問に四名の議員が、障害者の福祉対策や平成十年度の減反対策などについて浅見町長にただしたほか、期間中には、平成八年度一般会計や特別会計の決算が、決算審査特別委員会で審議され、また、平成九年度補正予算や町道路線の認定・変更等の案件も原案どおり可決されました。

おもな議案

■平成九年度一般会計補正予算

追加補正の主なものは、県道拡幅に伴う中央東公園改修工事一、二〇五万円、役場植栽等移設工事九三九万円及び消防自動車格納庫等移設工事五五〇万円、勤労者体育センター入口舗装工事三六三万円、川根谷内バス停待合所建設工事二〇一万円などです。

■平成八年度一般会計決算の認定（詳細は別掲4から5ページを参照）

■平成八年度国民健康保険をはじめ家畜診療所、下水道事業、老人保健特別会計決算をそれぞれ認定（詳細は広報2月号で掲載予定）

アイドリングストップにご協力を

アイドリング・ストップとは、「自動車を停車させているときはエンジンのかけっぱなしをやめよう」という取り組みです。不必要なアイドリングをやめれば、排ガスが減り、燃料も節約できます。

例えば、毎日十分間アイドリングをやめると、一台当たり一年間で約五十リットル（約五千円分）が節約できます。地球温暖化の原因となる二酸化炭素の排出削減にも役立ちます。

コンビニなどでの買い物、人待ち、荷物の積み降ろし、ドライブ休憩などの際にはアイドリング・ストップにご協力ください。

火災発生のお問い合わせは、テレフォンサービス ☎382－0119　横越町消防団 横越町分署